

## 第9章 運営・体制の整備

### 第1節 方向性

史跡 磯浜古墳群の管理団体となっている大洗町による管理は、この先、ずっと継続するものであるから、その本質的価値を熟知し、将来にわたり継承していくことが肝要である。そのためには、文化財所管課の体制を充実させ、庁内の連携を図りながら専門家による指導助言を受けて様々な機関や市民との連携・協働を行っていくことが重要である。

### 第2節 方法

#### 1. 体制の充実

大洗町は史跡の管理団体として磯浜古墳群全体を適切に保存管理していく必要があり、その実務は、町教育委員会生涯学習課が担う。また、活用や整備などその扱う事務は、今後、増加が見込まれる。磯浜古墳群を将来にわたり、適切に保存管理・活用・整備することができるよう、文化財専門の正職員の新規採用や、教育委員会生涯学習課内への配置を行い、体制の充実を図るものとする。

#### 2. 庁内連携

磯浜古墳群の保存管理については、町教育委員会生涯学習課を中心としながらも、その活用や整備となると、総合計画の中に位置づけられ、歴史公園、景観条例、地域振興や観光資源などの広範な役場の事務が想定でき、まちづくり推進課、都市建設課、生活環境課、商工観光課などの他部局との庁内連携は必須である。そのため、庁内において磯浜古墳群の本質的価値を共有し、情報交換や支援が受けられるよう、連携体制を整える必要がある。

#### 3. 専門家による指導助言

磯浜古墳群を取り巻く古墳・古墳時代の調査研究は日進月歩であるので、今後とも常に最新の動向を反映させ、評価を定めなければならない。そのような中では、古墳時代の専門家による評価、指導助言は、常に磯浜古墳群の価値付けに際して重要な位置を占めており、今後とも適切に指導助言を仰がなければならない。

#### 4. 様々な機関との連携

国指定・県指定の古墳が所在する茨城県内外の自治体や博物館、古墳を巡る博物館友の会や愛好家、旅行業者、グッズを作るクラフト作家、町観光協会や産業技術総合研究所など、磯浜古墳群の調査研究、保存管理、普及活用、史跡整備など、これまで培ってきた連携の枠組みを活かしながら、今後はより関係性を広げていく必要がある。

## 5. 町民との連携・協働

これまでも町民の歴史愛好家グループや町外の大洗ファンと連携をして、磯浜古墳群の環境整備を進めてきた経緯がある。また、磯浜古墳群の価値を町外の観光客へ伝えるサポーターも育ってきている。今後とも町内外の磯浜古墳群を愛する町民サポーターと連携・協働して、磯浜古墳群を未来に継承する諸活動を行うものとする。